

# 診療最前線

## 子牛の運動器疾患に対するスプリント療法について

「子牛の歩様がおかしい」「肢が曲がっている」などの運動器疾患に対し、スプリント療法を行って良い結果が得られました。

スプリントとは、「患部を固定し安静にする」「関節の変形予防や矯正をする」などを目的とした装具の総称です。人間の医療では日常的に使用されていますが、牛ではまだまだあまり一般的ではありません。

子牛の運動器疾患といっても症状はさまざまですが、今回は後肢の肢軸異常に対して行ったスプリント療法を紹介します。

写真①の子牛は、左後肢は正常ですが、右後肢の飛節が内側に曲がり、膝関節と蹄が外を向いて、歩様が不安定でした。

この飛節での肢軸異常を矯正するため、プラスチックキャストを素材に、患肢の外側を支え、飛節の内側から圧迫できるように形成して、スプリントを作製しました。このスプリントを装着した姿が写真②です。

装着から19日後にスプリントを除去したところ、ほぼ正常な姿勢になり、飛び跳ねて走ることができ、ままでに回復しました（写真③）。

この症例以外にも、長趾伸筋腱断裂が疑われた症例や、上腕筋および上腕二頭筋または腱の拘縮が疑われた症例にも、スプリント療法を施し、治癒した例もあります。

スプリント療法は、患畜の体格や症状に合わせて臨機応変に対応するため、今回ご紹介した症例以外でも応用が可能なと考えます。もし、「肢の着き方がおかしい」といった子牛がいましたら、獣医師にご相談ください。

（獣医師・森山直樹）



症状に合わせて作製したスプリント



写真①



写真②



写真③